



平成23年度「さわやか」活動報告

項目	23年度	八幡	小倉
登録ボランティア数	58名	33名	25名
登録車両数	56台	33台	23台
登録利用者数	48名	34名	14名
送迎回数	2922回	1225回	1697回

(八幡・小倉事業所 平成24年3月31日現在)

六月十日(日)午前十一時十分から北九州市総合保健福祉センター(小倉北区)六階会議室で、特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」第九回定期総会が開催されました。

初めに岡副理事長が開会宣言を行い、資格審査委員に加峯理事と貞谷事務局長が選任されました。

今年度も事故なく 事業を終えた

続いて、山田理事長が「二十三年度も『さわやか』は

「さわやか」の事業に

理解とご協力を

第9回「さわやか」定期総会

無事に事故もなく、事業を終えることができました。

『さわやか』は設立十七年目、法人として九年目を迎えます。

新しく腎友会の幹事になられた方など、『さわやか』のことをよく知らないという方がいらつしやいます。

今日は『さわやか』の歴史と活動内容を簡単にまとめたものを用意しておりますので、後ほどご覧いただき、『さわやか』の事業を理解していただき、ご協力をお願いいたします」と挨拶がありました。

次に、資格審査委員より、午前十一時五十分現在、総正会員数二十九名、出席者数

新役員紹介

- 理事長 **山田 浩美**
(門司港腎クリニック)
- 副理事長 **梶原 待子**
(門司港腎クリニック)
- 副理事長 **岡 俊一**
(かわいクリニック)
- 理事 **加峯 東樹**
(ひがしだクリニック)
- 理事 **長江 信一**
(今村クリニック)
- 理事 **若原 清彦**
(折尾クリニック)
- 理事 **田村 昌弘**
(天神クリニック)
- 理事 **高倉 徹也**
(戸畑共立病院)
- 理事 **高原 由美**
(今村クリニック)
- 監事 **小田 睦美**
(難病連)



医生ヶ丘クリニック
安東 正一氏

二十六名、(うち書面表決者数九名)、欠席者数三名で、定款に基づきこの総会は成立する旨、報告がありました。

続いて、議長に医生ヶ丘クリニックの安東正一正会員が選任されました。

また、議事録署名人に山田理事長と梶原常務理事が選任されました。

その後審議に入り、全ての議案の審議を終了し満場一致で承認されました。

その中で今年、役員改選の年であり、役員の任期満了に伴い改選する提案があり左記の者が新役員として再選されました。

その後第一回理事会を開催し、定款第十五条二項の規定により理事の互選で理事長を山田浩美とすること、報告し異議なく承認されました。

よりよい福祉有償運送に していきたい

新理事長の挨拶で山田理事長は、「福祉有償運送は今のところ問題なく行われておりますが、北九州市内にある9つの事業所の代表として北九州市福祉有償運送の構成員をさせていただいておきますので、実施団体にしかわからない問題点を浮き彫りにして、利用者やボランティアさんにとつてより良い福祉有償運送にしていきたいと思っております。

私ほか、新役員一同初心に戻り精一杯頑張りますので、これまで以上にご指導いただきませうようお願いいたします」と話しました。

最後に、平成二十四年度の福祉有償運送運転協力者研修について説明がありました。

「二種免許を待っている方はセダン型講習のみ受講し、ヘルパーの免許を持つている方は福祉車両のみ受講すれば運転協力者として登録



北部九州三県合同
ボランティア研修交流会
日にち

平成24年9月9日(日)

今回の、研修交流会は、「ステップ福岡」主催で福岡市内で行われます。
福岡・佐賀・長崎の各事業所のボランティアさんとの交流をしていただきます。
是非、ご参加ください。
詳細は、後日お知らせ致します。

ができます。

また、北九州市のちをつなぐネットワーク推進課が作成した『北九州市内の福祉有償運送実施団体一覧』(平成二十四年三月末版)を出席者全員に配布しました。
昨年配布したものは利用の金額や条件などが変更になっている団体もあるので、今年のものをご参考に使用してほしい」と説明があり、満場一致をもって承認されました。

以上で、総会の議案全ての審議を終了したので、安東理事長の解任の挨拶があり、岡副理事長が閉会を宣し、午後十二時に閉会しました。

未だに様々な問題が

日本中を取り巻いている

私たちが取り巻く情勢

「さわやか」第9回定期総会の時に報告をしました、情勢報告の中より一部を抜粋して紹介します。

昨年三月十一日に起こった東日本大震災から一年がたち、未だに様々な問題が日本中を取り巻いています。それは私たちの生活にも大きな影響を及ぼし、またその生活を脅かしかねないものです。

三〇メートルの高さの津波が町全体を襲い、全てを洗いざらい呑みこみ、それが瓦礫となって町に山積みとなっており、復興の妨げになっていきます。震災直後の瓦礫は、全体で二二〇〇万トンにものぼると言われています。

一〇六年分の瓦礫が

山積みになっている

宮城県石巻市では、市が自力で処理できる一〇六年分の瓦礫が山積みになっています。政府は瓦礫の受け入れを地方自治体に要請しましたが、要として進んでいません。北九州市でも現地の視察などをして、受け入れの検討を始めていますが、

反対の声も多く届いているそうです。

ただの震災の瓦礫ならば、どの自治体も普通に受け入れ、復興に協力するのではないのでしょうか。

そこには、福島の子力発電所の震災によって起こった放射能漏れに対する住民の大きな不安が受け入れ

有意義な意見交換会に

福祉有償運送実施団体意見交換会

今年一月に北九州市保健福祉局地域支援部のちをつなぐネットワーク推進課が主催した、福祉有償運送実施団体意見交換会が開かれました。

以前から運営協議会の構成員と実施団体の双方から申し出があった提出書類の簡素化や書式の統一などについて、事務局から提案があり、それぞれ意見を出し合っており、わかりやすいものに改善されました。また、それぞれの事業所



の妨げになっています。

政府の原子力施策や、安全管理、事故後の対応その他諸々・これが、政府や電力会社に対して各地の住民の方々の不審や不安の表れであり復興の妨げの原因の一つではないでしょうか。被災地の沿岸部の主力産

安全運転の向上に力を入れる

北九州市福祉有償運送運営協議会

北九州市福祉有償運送運営協議会は、利用者の利便性を重視しながら、法律に基づき昨年度も四回の協議を重ねてきました。

毎年のように課題にあがるのは、運転協力者の高齢化やそれに伴う安全運転確

業である水産加工業などの再建も進んでいません。現在でも約六五〇〇人が職探しを続けています。仕事や住むところが無いというのでは、復興はあり得ません。

「安全神話」は跡形もなく

崩れ去った

原子力発電所の問題も私たちの生活に大きな影響があります。震災による福島第一原子力発電所の事故は日本だけでなく、世界中の原子力発電の在り方などに大きな影響を与えることになりました。原子力発電は安全である・と言われてきた「安全神話」は跡形もなく崩れ去ってしまいました。

ここ北九州市も市内の一部が、佐賀県の玄海原子力発電所から一〇〇km圏内に入るそうです。

原子力発電所の再稼働や

保の問題や飲酒運転のチェックなどです。各事業所それぞれに工夫や検討をしています。

「さわやか」でも折にふれて、研修会や交流会を通して安全運転の向上に力を入れていきたいと思えます。

廃止など意見は賛否両論ありますが、あの福島の人々が味わった苦悩がいつ私たちの身の上になりかかってくるのか、わかりません。そのリスクを常に考えておかなければなりません。

死者一五八五四人、行方不明者三一五五人(二〇一二年三月一〇日現在)を出したこの東日本大震災を教訓とするには、あまりにも、大きな代償ですが、今後の防災や減災の対策をとっていただきたいと思えます。

何をすべきか

何をしなければいけないか

私たちが透析患者も災害時対策など行政との連携を取りながら、自分自身もいざという時に何をすべきか、何をしなければいけないのか、考えておかなければなりません。